

2023

10.4 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_ffIXospjRUGO2HIRO8QxHg](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_ffIXospjRUGO2HIRO8QxHg)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

我々は、どのようにして野生動物と共存すべきか？  
— 人間社会から考える野生動物問題 —

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

野生動物 狩猟

獣害問題

絶滅

移入種

共存

安田 章人 准教授

九州大学 基幹教育院 人文社会科学部門

私は、1982年に兵庫県にて生まれました。東京農工大学を経て、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了しました。その後、法政大学や立教大学の非常勤を経験し、2013年から九州大学・基幹教育院にて教育研究をおこなっています。

研究テーマは、「狩猟をキーワードに、『人と野生動物の共存』を社会科学側面からフィールドでの調査をもとに考える」というもので、環境社会学と地域研究を専門にしていますが、狩猟や野生動物保全に関する様々な分野（人類学や民俗学、心理学、生態学など）に関心を持っています。主な調査地は、アフリカのカメルーン共和国やアメリカ合衆国ハワイ州で、国内では北海道や福岡などでフィールドワークをおこなっています。主な著作は、単著『護るために殺す？アフリカにおけるスポーツハンティングの『持続可能性』と地域社会』勁草書房、2013年。分担執筆『アフリカ潜在力5 自然は誰のものか：住民参加型保全の逆説を乗り越える』（山越言・目黒紀夫・佐藤哲編）京都大学学術出版会、2016。『野生動物管理のための狩猟学』（梶光一・伊吾田宏正・鈴木正嗣編），朝倉書店、2013。です。

昨今、野生動物と人間の問題、いわゆる、野生動物問題が深刻化しています。それは、農作物被害などを引き起こしている「増えすぎた」とされる野生動物の問題から、反対に、減少や絶滅の問題、そして外来種や移入種の問題まで、多岐にわたります。

こうした問題を解決するために、自然科学、いわゆる理系からは、増えてしまったり、持ち込んでしまった野生動物を捕獲して数を減らすことや、減ってしまった野生動物の個体数を回復させるなどの試みがされています。しかし、それだけではなく、なぜこのような問題がおこったのか？、どうして深刻化しているのか？、誰と、どのような解決策を目指せばいいのか？といった、社会科学、いわゆる文系からのアプローチも求められています。

本セミナーでは、私が現地調査をおこなってきた国内外の事例を紹介し、人間社会から野生動物問題をどのように向き合えばいいのか、みなさんと考えたいと思います。

2023

10.11 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_jk\\_pbyEFS02HWZYHQhmV-A](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_jk_pbyEFS02HWZYHQhmV-A)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 熱を使った冷房・除湿技術の紹介

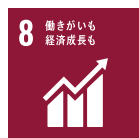
司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



3

すべての人に  
健康と福祉を

7

エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

8

働きがいも  
経済成長も

9

産業と技術革新の  
基盤をつくろう

11

住み続けられる  
まちづくりを

13

気候変動に  
具体的な対策を

Key Words

空調

省エネルギー

排熱利用

再生可能エネルギー熱

**宮崎 隆彦** 教授

九州大学 総合理工学研究院 環境理工学部門

イギリスのノッティンガム大学で MSc in Renewable Energy and Architecture を取得し、東京農工大学で博士（工学）の学位を取得しました。東京農工大学では学位取得前は技術職員、学位取得後は特任助手、助教として教育と研究に携わり、2011年4月から九州大学大学院総合理工学研究院の准教授を務め、2017年9月に教授に昇任いたしました。専門分野は熱工学であり、特に再生可能エネルギー熱や低温排熱を利用した空調技術について研究しています。関連する図書として、私が監修に関わった「熱駆動サイクル技術の基礎と応用」や「吸着式冷凍機 / ヒートポンプによる低温排熱活用技術」があります。

空調は、居住者に快適な生活空間を提供する役割だけでなく、熱中症対策として人々の生命を守る重要なアイテムです。また、感染症対策の観点から換気が奨励されていますが、外気を大量に室内に取り込むと空調の消費電力が増加します。このように、空調は人々の健康とも密接に関わり、さらにはエネルギーや環境の問題とも深い関係があります。本セミナーでは、空調におけるエネルギー消費と二酸化炭素排出を削減するための技術に焦点を当て、電気を使用せずに熱を投入することで冷房や除湿を行う空調技術について紹介します。

2023

10.18 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_eDp56YG7R8qc58TtN8EnRw](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_eDp56YG7R8qc58TtN8EnRw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 食の欧米化とともに変化する アジア人の腸内フローラと健康

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

腸内フローラ

アジア

食

健康

中山 二郎 教授

九州大学 農学研究院 生命機能科学部門

1989年東京大学大学院農学系研究科修士課程を修了し、同年より、同学農学部農芸化学科助手、2001年九州大学大学院農学研究院微生物工学研究分野・助教授、2007年准教授、2020年教授に就任し現在に至っております。その間、1994年に東京大学にて博士(農学)を取得し、また、1998年から1999年までオランダ王国ワゲニンゲン大学微生物工学研究室に訪問研究員として留学しております。このオランダ留学中に、今回お話しする腸内細菌の研究を開始しました。特に、九州大学就任後に築いたアジア研究者とのネットワークを基に、Asian Microbiome Project を設立し、この10年間はアジア人の腸内細菌の研究に注力しております。

最近、ちまたでよく聞く「腸内フローラ」ですが、食と健康を仲介する第三の臓器とも言われ、その機能に皆さんの注目が集まっています。アジアに視野を広げると、国や地域特有の食文化があり、腸内細菌もそれぞれ特異的な働きをしていることが察せられます。しかし、アジアに欧米食が入り込み、国特有の食習慣が薄れるとともに、元来、特徴的であったアジア人の腸内フローラが欧米型に変わっていていることが浮き彫りになってきました。まさしく今、アジア人は腸内フローラの過渡期を迎えていると言えます。それでは、腸内フローラが変わると身体にはどのような影響が及ぶのか。そのことも含めて、本講演では解説したいと思えます。

2023

10.25 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_0KKcrsQZT\\_ePSNM\\_N7YsRw](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_0KKcrsQZT_ePSNM_N7YsRw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 採集活動と採集林の未来

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

15

陸の豊かさも  
守ろう

Key Words

生業

植物利用

森林

採集活動

採集林

藤岡 悠一郎 准教授

比較社会文化研究院 環境変動部門

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科で地域研究の修士号および博士号を取得。修士課程より、アフリカのナミビアや南アフリカに位置する農村社会や地域の自然環境の変化に関する研究に取り組んできました。前職（東北大学学際科学フロンティア研究所）では、北極域研究推進プロジェクトに参加し、シベリアの永久凍土融解が地域社会に及ぼす影響について研究を実施してきました。2017年4月から、九州大学比較社会文化研究院で講師に着任しました。

日本列島の森林には、地域の住民が植物などの資源を採集する場として利用し、コミュニティによって維持されてきた林が各地に点在している。他方、日本では昭和30年代以降の生活様式の転換やその後の高度経済成長期のなかで採集活動は衰退し、このような植生は消失しつつある。しかしながら、採集は私たちが古代から営んできた活動であり、自然の恵みを得ることに喜びを感じ、季節のうつろいを体感する重要な活動ではないだろうか。本特集では、採集の場となった植生を“採集林”とよび、採集林をめぐる地域の取り組みや課題などを報告する。そして、日本における採集活動や採集林の将来について考えてみたい。